

# 北急延伸 周辺のまちづくり

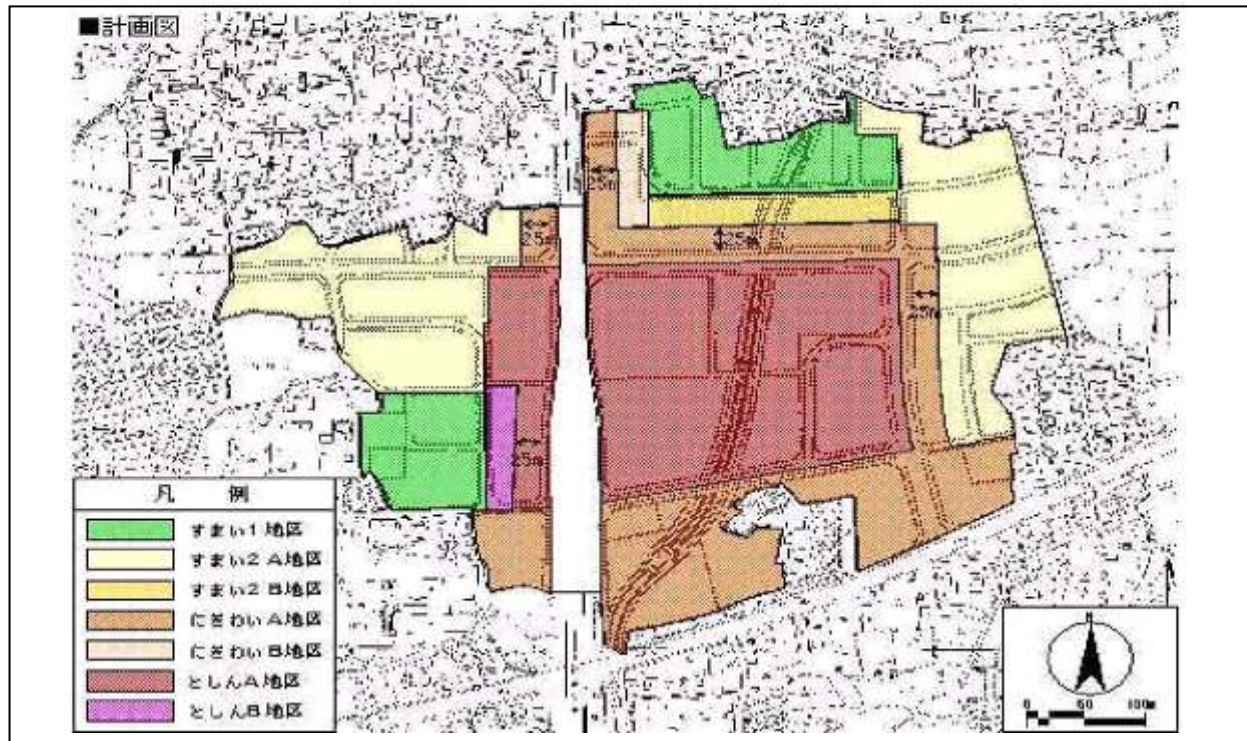
平成23年3月

箕面市

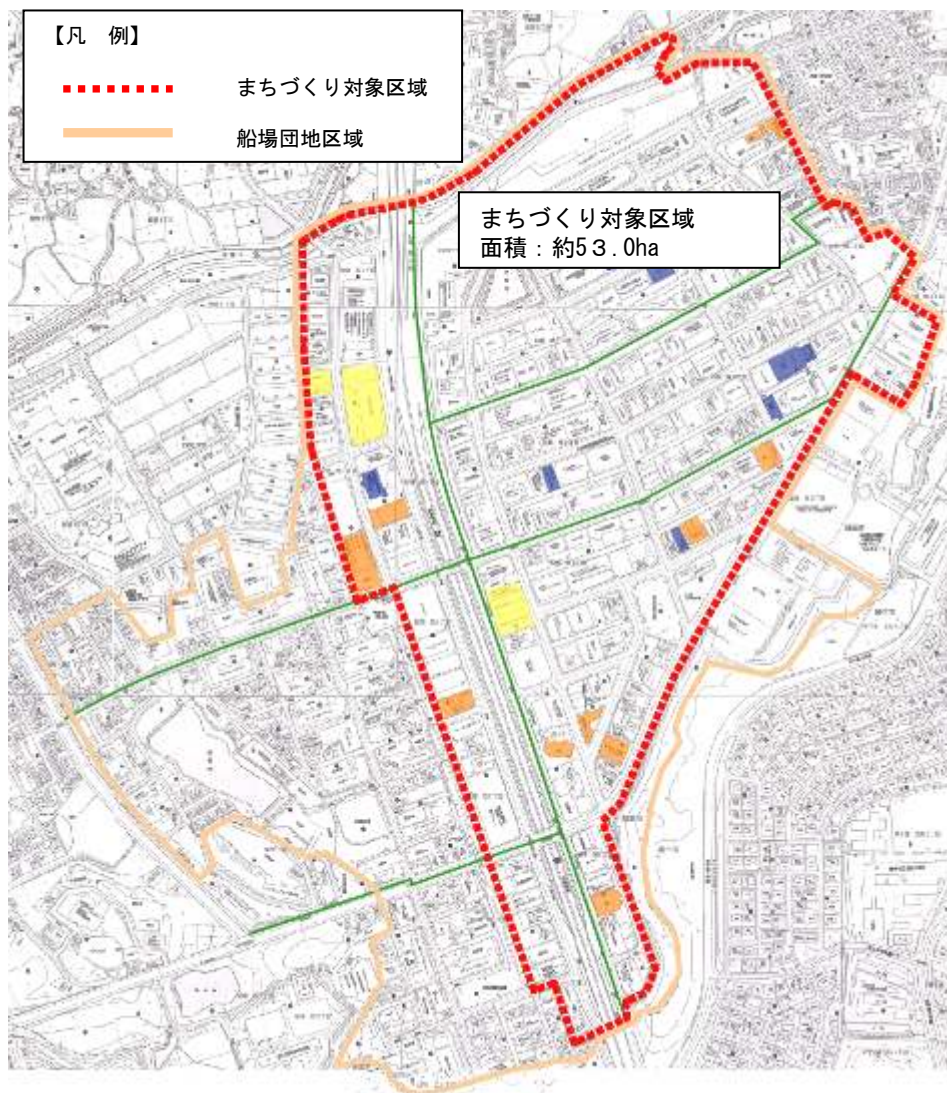
# かやの中央の状況

## ◆平成15年 箕面新都心まちびらき

- ・北急延伸を前提としたまちづくりに向け、平成7年 面整備に着手
- ・開発面積:約22.6ha
- ・事業費:約225億円
- ・駅前広場用地を確保(面積:約1ha、事業費:約45億円)
- ・現在、年間約900万人が来訪



# 船場地区の状況



まちづくり対象区域＝箕面市特別業務地区面積

## 【大阪船場繊維卸商団地設立の経緯】

- 大阪船場繊維卸商団地(船場地域)は、昭和38年、国の流通近代化政策の一環である「中小企業近代化資金助成」による「卸売業店舗集団化事業」を活用し、大阪市本町の船場から中小卸売業者が移転、形成した産業集積地である。
- 平成7年には中小企業高度化資金融資を完済したが、その後、日本経済全体が低迷するなか、卸売業を取り巻く環境は特に厳しく、倒産・移転する企業が相次いだ。それにより、卸商団地でありながら団地内で住居や遊技施設などが増加し、卸商団地としての機能が著しく衰退している。
- また、建物造成から約40年を経過し、その更新時期が迫っており、厳しい経営状況のなか、各企業は対応を求められている。



造成を終えた頃の船場団地



現在の船場団地

# 船場地区の課題と解決の方向性

## 課題

■ 卸商団地機能の衰退

■ 迫る建物更新時期

■ 北大阪急行線延伸によって土地利用の可能性が高まり、ミニ開発が頻発することで、物流機能・住機能とも劣悪な環境となる可能性大

■ 団地組合が検討を開始 (団地再整備検討委員会)

## 解決の方向性

■ 関係者が一体となってマスタープラン作成し、まちづくりの方向性を共有化

■ 産業・商業機能の活性化 等

■ 再整備の手法、資金計画の検討